１人の熱意が多くの人を動かし生まれた「無期限ファンド」

株式会社リバネスキャピタル（東京本社 東京都新宿区、代表取締役 池上昌弘、以下「リバネスキャピタル」）は、「ジャーミネーションファンド 1 号投資事業有限責任組合（通称ジャーミネーション 1 号ファンド）」の組成を完了し、2023 年 1 月から運用が開始されています。

以下、本稿では、日本で最初となる期限のない「ジャーミネーション１号ファンド」を組成したリバネスキャピタル代表取締役の池上昌弘様に、いくつかの視点からお伺いしてみました。

○　「ジャーミネーション１号ファンド」の一番の特徴はなんでしょうか？

本ファンドは、情熱をもってディープイシューの解決に挑戦するアントレプレナーが創業した国内ベンチャーへの「シード投資」に特化したファンドで、存続期間を”無期限”としたことが、最も特徴的な点といえます。

ご承知のとおり、研究開発型のベンチャーは軌道に乗るまでに非常に長い時間がかかります。これまでの経験から、イクジットのプレッシャーをベンチャーに与えることは健全ではないと、私は思っていました。また、IPO や M&A の形式的なイクジットではなく、社会実装をする本質的なイグジットへ向けての VC の伴走支援が足りないということも痛感していました。

「期限という制約」を課さない「無期限ファンド」であれば、こうした研究開発型ベンチャーの育成に大きな弾みになるにちがいない。このような背景があって、私のなかに、今回の「無期限ファンド」の発想が生まれたという次第です。

○　「ジャーミネーション１号ファンド」の狙いは、よく分かりました。次に、その「無期限ファンド」の出資者の構成を、差し支えない範囲で教えていただきたいと思います。

本ファンドを運営する無限責任組合員（GP）はリバネスキャピタルで、有限責任組合員（LP）には親会社の株式会社リバネス（東京本社 東京都新宿区、代表取締役 丸幸弘、以下「リバネス」）と、リバネスキャピタルのメンバーが参画しています。

本ファンドは、すべての組合員が、単なる資金の支援者ではなく主体的にベンチャーの成

長に寄与するとともに、大企業や中小企業を巻き込んだ新たなプロジェクトを仕掛けることで、**保有株式の売却を第一の目的としない**新しいファンドのあり方を実現しようとしています。

ただし、ファンドが無期限だからといって、出資先がいつまでも結果を出さないことを許容するものではありません。リバネスは知識プラットフォーム（注1）を活用して投資先企業の研究開発の促進を支援しています。また、リバネスキャピタルは投資先企業の経営基盤の構築を伴走することで、少しでも早く、確実に投資先企業と一体となって科学技術の社会実装への道筋を作って行くことに努めています。

（注1）知識プラットフォーム

リバネスでは、これまでに、課題解決に資するディープテックのエコシステムを醸成すべく、テックベンチャーの発掘・育成プログラム「TECH PLANTER®」や異分野融合による新たな知の創出「超異分野学会」等の取り組みを推進し、多様な知識が集積する「知識プラットフォーム」を拡大している。

○　社会実装まで長期の年数を要する研究開発型ベンチャーの成長促進を目的として、「無期限」で支援されておられるのに、敢えて「ファンド」という形態に拘られたのは、どうしてなのでしょうか。

それには、２つの理由があります。

先ず、1つ目は、これまで誰も挑戦していない「無期限ファンド」組成というチャレンジを通じて、「無期限ファンド」の必要性を広く世に問いかけることです。

現存するファンドは、一般的に存続期間が10年と定められている場合が多いわけですが、研究者が起業して社会実装をするには10年では不十分だといわざるをえません。社会実装まで長期にわたりベンチャーに伴走できる組織が世の中にはありませんでした。それだったら、自分たちで作ってみようじゃないか、というのがきっかけでした。

ファンドの存続期間が10年以上だと出資を募るのが難しいという事実は確かにありますが、実際に「無期限ファンド」を組成してみて、その意義を世に示すことができれば、リバネスキャピタル以外にも「無期限ファンド」を組成するVCが出てくるのではないかと期待しているところです。

ファンドに拘った2つ目の理由は、LP（リバネスと、リバネスキャピタルのメンバー）のコミットメント意識を高めることです。

本ファンドでは、出資者は自ら資金を出すだけでなく、プロジェクトの推進も手掛けてい

ます。リバネスグループの成長を第一に考え、ベンチャーを巻き込むことで、ベンチャーを成長させていく、という新しい仕組みを私たちは構築しました。20 年前にリバネスに発起人として参加した時と同じように、新しいリバネスをもう一度立ち上げるくらいの気概で本ファンドを立ち上げたのです。LP をグループ内に限定しているのは、そのためです。リバネスグループの社員は、これまでも、「サイエンスブリッジコミュニケーター®」(注２) として、研究者やベンチャーに伴走してきましたが、自ら資金を出すことで、当事者意識をより強くもつことができるうえに、コミットメント意識が高まるのではないかと考えたからです。

（注２）サイエンスブリッジコミュニケーター®

リバネスでは、先端科学に関する正しい知識を身につけ、社会に向けてわかりやすく伝えること（サイエンスブリッジコミュニケーション）のできる人材をサイエンスブリッジコミュニケーター®と位置づけている。

○　「無期限ファンド」の組成プロジェクトをスタートさせてからこれまでの間に、実際に見えてきたこと、感じたことがありましたら、ご紹介いただけないでしょうか。

前例のない「無期限ファンド」の組成にあたっては、様々なハードルがあったことは事実です。それでも「無期限」に拘ったことから、契約書の作成過程で、有期のファンドではあたりまえの条項を変更しなければなりませんでした。どうやったら「無期限」という形の運用に耐えうる形になるか、弁護士チームと何度も議論を重ねたすえ、ようやく一定の結論に達することができました。その過程で、私どもの思いを理解してくださった弁護士チームの熱意を随所に感じることができました。

また、グループ社員への LP 募集の説明会で、リスクについてひととおりの説明をしたうえで、「LP には、自ら資金を拠出するだけでなく、リバネスグループの成長にコミットして、さらに地球貢献を実現するという強い情熱と意思を持ち続けることを強く期待している」と、私は何度も説明しました。どれくらい出資が集まるかは未知数でしたが、結果的に 32 名もの社員が LP としてファンドに参加することになりました。その数に驚き、またその熱意に感動を覚えました。

○　リバネス、リバネスキャピタル、両社のこれまでの歩みを簡単にお話しいただきたいのですが。

リバネスは、2002 年 6 月 14 日に理工系の大学生・大学院生 15 名がファウンダーとなり、

自費で 360 万円の資本金を集め、「科学技術の発展と地球貢献を実現する」という理念のもと設立した会社です。以来、リバネスのメンバー全員が、異分野の知識や技術をブリッジし、地球貢献に資するプロジェクトを自ら仕掛け続ける「サイエンスブリッジコミュニケーター®」として活動しています。

2008 年から、若手研究者向けに「リバネス研究費」という制度を創設して、研究費の助成を推進しました。2014 年には、世の中に新たな業を創る「創業応援プロジェクト」の一環として、研究開発やものづくりの力で課題解決に挑むディープテックベンチャーの発掘・育成プログラム「TECH PLANTER®」を開始し、これまでに国内外約 3,000 名に及ぶアントレプレナーを発掘しています。このように、私どもは、研究者とベンチャーの支援に組織的に取り組んできました。

知識製造業(注３)を行うリバネスから、投資と管理業務支援を行う部門を分けるため、2020 年にリバネスキャピタルを設立しました。リバネスキャピタルは、リバネスの管理部門を担い、「TECH PLANTER®」参加ベンチャーの管理部門支援と経営の土台作りをサービスとして提供しています。また、経営の土台作りの一環で、これまで主にシード・アーリー期のディープテック型及びプラットフォーム事業型ベンチャーを対象に、延べ 44 社（2023 年 1 月現在）に出資しています。

（注３）知識製造業

サイエンスとテクノロジーを、わかりやすく伝えること。例えば、最先端の研究成果を子どもたちにもわかるように伝えれば、子どもたちの頭の中には新たな「知識」が生まれることになる。また、技術シーズを探索している企業に伝えれば、知識の組み合わせによって新たな「事業」が生まれる。こうした自らの営みを、リバネスは「知識製造業」と呼んでいる。

○　本日は、「無期限ファンド」という興味深いお話をお聞かせいただきました。
「無期限ファンド組成というチャレンジをしたい」という池上社長の思いから始まったプロジェクト。「1 人の熱意が多くの人を動かす」ということに感銘を受けました。
○　今回ＬＰとして出資した社員の方々が、将来「自ら出資し、本当に支援したいと思う会社」としてどんな会社を提案してくるのか、そしてその会社がどのように成長していくのか、今から期待が膨らみます。
○　「ジャーミネーション 1 号ファンド」の組成を契機に、近い将来、「無期限ファンド」が通常のファンドの選択肢の 1 つとして定着し、こうした「無期限ファンド」を通じてベンチャーを支援する VC が増えることにつながれば、日本のベンチャー、なかでも研究開発型ベンチャーの今後は明るいものになるものと期待する次第です。
本日は、まことにありがとうございました。

＜ご参照＞

ジャーミネーション１号ファンド組成リリース

＜メディア掲載＞
日本経済新聞：無期限ファンド創設 リバネス、研究開発型新興を支援

＜問合せ先＞
株式会社リバネスキャピタル 担当：岩尾
Tel：03-5227-4198　Mail：contact_us@lnest.capital

＜池上昌弘様　略歴＞
修士（技術経営）。東京工業大学生命理工学部卒業。2002 年 6 月に株式会社リバネスを立ち上げ、取締役 CFO に就任。リバネス創業期の財務・経理・労務などコーポレート業務を一手に引き受け、経営の土台構築に貢献しながら、これまでに 70 社以上の研究開発型ベンチャー企業のコーポレート、ファイナンス面を支援。2020 年 1 月リバネスの子会社として株式会社リバネスキャピタルを会社分割により設立し、代表取締役に就任。他リバネス関連子会社の監査役等。